

## 2008年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2008年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2008年度秋季総合分科会の際の9月25日（木）15時00分より、東京工業大学70周年記念講堂にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第13巻3号の会報131でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介は、今までと同様にご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載することになりました。（五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。）

### 特別賞

川口周（阪大理准教授）

業績の題目：標準的高さの理論

代数体上に定義された代数多様体がそれ自身へのよい写像をもつとき、その性質を高さによばれる量を切り口に調べてきました。数学のいろいろな分野と関連しそうなところも面白く感じています。お世話になった方々に深く感謝します。

加藤淳（名大多元数理准教授）

業績の題目：調和写像分散流の初期値問題の適切性の研究

非線型分散及び波動方程式の初期値問題の適切性を主に研究しています。特に、物理的（または幾何学的）背景を持つ方程式に隠れている良い性質を捉えることが目標の一つです。これまでにお世話になった方々に感謝致します。

矢野孝次（神戸大理講師）

業績の題目：Excursion 測度と極限定理への応用

確率過程の極限定理を研究しており、特にエクスカージョン理論からのアプローチが威力を発揮するものに興味を持っています。日頃お世話になっている先生方、いつも励ましてくれる先輩方、友人達、両親、妻に心から感謝いたします。

## 奨励賞

戸松玲治（学振特別研究員PD（東大数理））

業績の題目：作用素環的量子群の研究

Woronowicz 流の量子群とそれらの作用素環への action を主に研究してきました。今後も面白い問題を研究していこうと思います。これまで指導して下さった日本の作用素環グループの方々に感謝いたします。

前川泰則（九大数理助教）

業績の題目：渦度方程式の数学解析

流体力学に関連した非線形偏微分方程式の解の性質を調べています。これまで多くの方々に支えられ、恵まれた環境の下で研究することができました。お世話になった方々への感謝を忘れず、少しでもこの分野の発展に貢献できればと思っています。

村井聡（学振特別研究員PD（阪大情報））

業績の題目：ジェネリックイニシャルイデアルと単項式イデアルの有限自由分解の研究

可換環論の組合せ論的な側面を研究しています。環論と組合せ論的なものとの間の良い関係が興味の対象ですが、将来的には色々な分野の話を絡められるような研究ができれば、とも思っています。日頃お世話になっている皆様にこの場を借りて深くお礼申し上げます。

富田直人（学振特別研究員PD（東京女大文理））

業績の題目：モジュレーション空間に関する基礎研究

モジュレーション空間という関数空間を研究しています。特に擬微分作用素との関係に興味を持っています。今回このような賞をいただけるまで私を導いてくださった先生方、そして友人の皆様にご心より感謝いたします。